

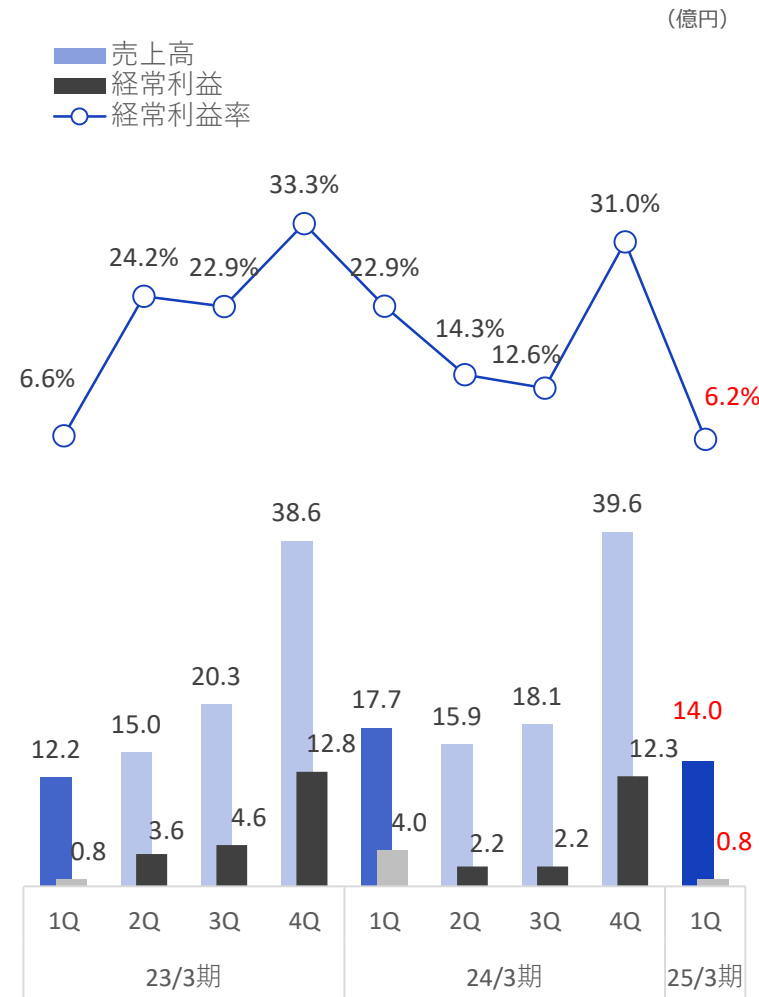
2025年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2024年8月9日

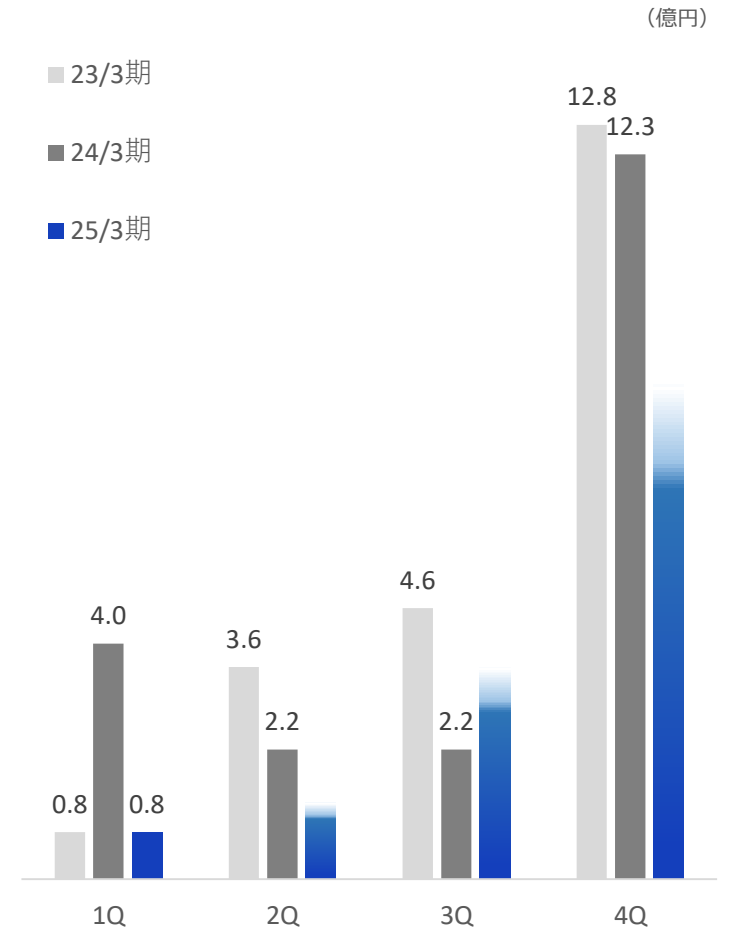


- 1Q決算は対前期で減収減益のスロースタート
- 前期は医薬分野の一時的な下期偏重緩和の影響で例年よりも1Q売上拡大。当期は医薬分野の売上が下期偏重に回帰し、全社売上の四半期推移に影響
- 今後、四半期を追って業績拡大の傾向で推移する見通し

四半期推移

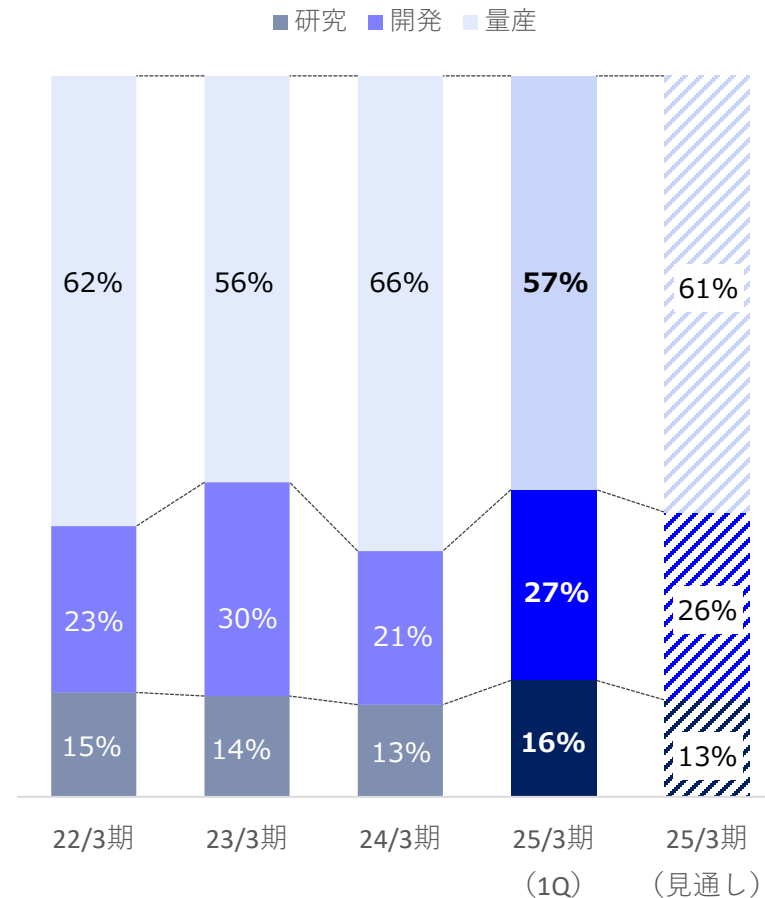


四半期別経常利益想定



- ステージ別では、量産ステージの売上比率が低下。一方、次の成長期待を担う研究・開発ステージのウエイトが上昇
- 分野別には、医薬1Qが例年通りの下期出荷製品の製造に注力へ回帰。バイオ分野は全体的に堅調であるものの、開発案件が若干の弱含み
- 他方、機材分野は在庫調整進捗など改善基調に手応え

ステージ別売上状況



ステージ別分野別業況(前期比)

	機材	医薬	バイオ
業況評価			
量産	在庫調整回復基調 医薬関連好調継続	下期出荷予定の製品製造に注力	前期と同水準
開発	好調	堅調	やや軟調
研究	堅調	好調	好調

1. 2025年3月期第1四半期 決算概要

- 1Q業績は、前期比21%減収、79%経常減益。今1Qが通常ベースと受け止め
- 前期との比較では、前期に出荷の集中した医薬分野の反動で低調となり、機材分野の回復はあるも、吸収できず
- 経常利益率は17ポイント低下の6%、EBITDAマージンは22%

(百万円)	2023/3期	2024/3期		2025/3期		2025/3期 進捗率	1Q前期比較	
		1Q	通期	1Q	通期見通し		差異	変化率
売上高	8,628	1,779	9,154	1,405	9,000	15.6%	△373	△21.0%
機能材料	2,832	610	2,714	798	2,900	27.5%	+187	+30.7%
医薬	4,259	923	4,609	395	4,050	9.8%	△528	△57.2%
バイオ	1,536	244	1,829	211	2,050	10.3%	△32	△13.3%
営業利益	2,163	404	2,081	85	1,380	6.2%	△319	△79.0%
経常利益	2,199	408	2,094	87	1,380	6.3%	△321	△78.7%
経常利益率	25.5%	22.9%	22.9%	6.2%	15.3%		△16.8p	
当期純利益	1,542	286	1,493	56	960	5.9%	△230	△80.3%
EBITDA*	3,082	621	3,003	305	2,304	13.3%	△315	△50.8%
EBITDAマージン	35.7%	34.9	32.8%	21.7%	25.6%		△13.2p	

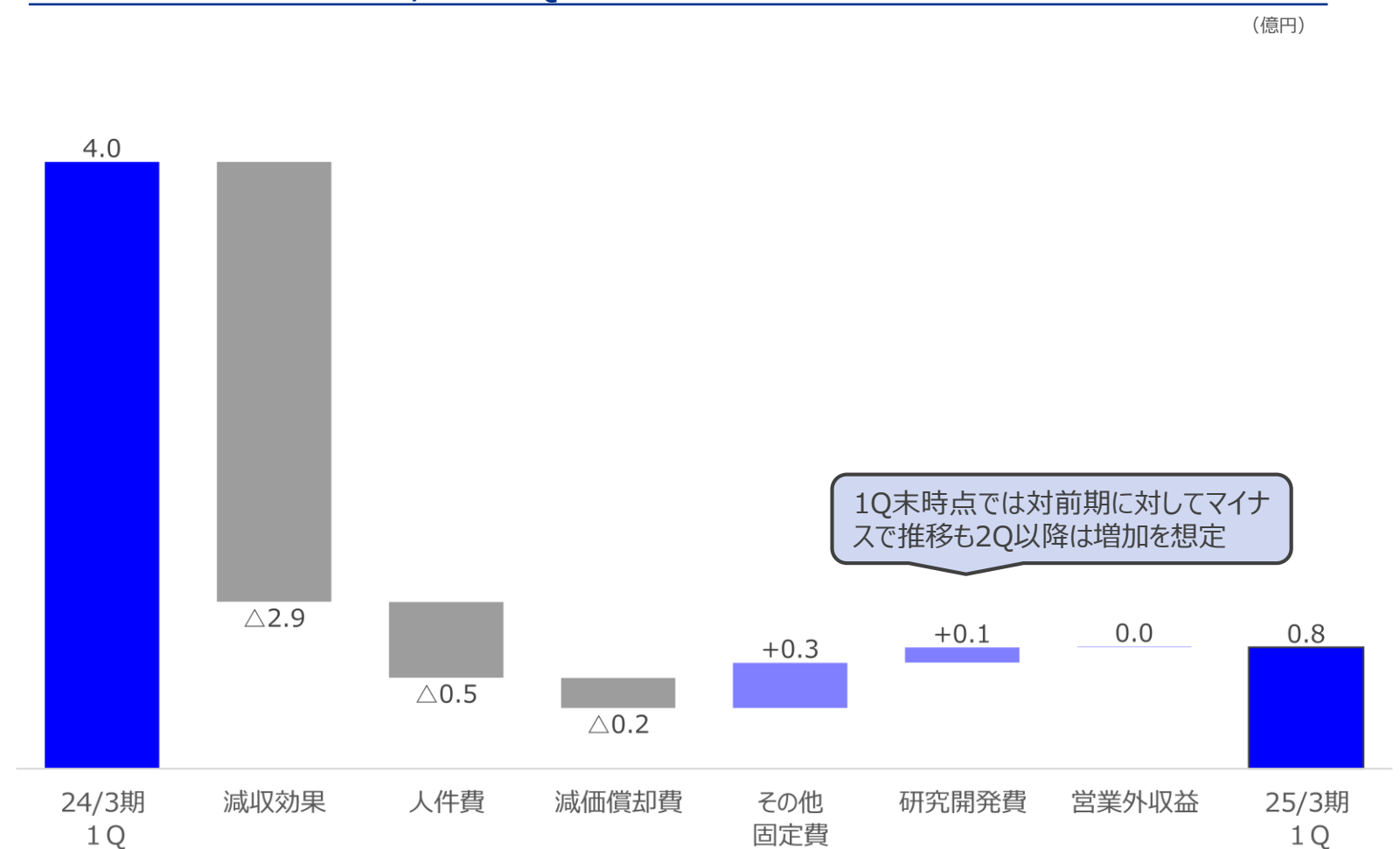
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

(百万円)	2023/3期				2024/3期				2025/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405
機能材料	712	603	832	682	610	576	723	804	798
医薬	284	553	886	2,533	923	673	535	2,476	395
バイオ	224	346	317	647	244	343	553	688	211
営業利益	79	342	459	1,282	404	223	222	1,230	85
経常利益	81	363	466	1,287	408	227	228	1,230	87
経常利益率	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%
当期純利益	51	256	320	914	286	154	154	897	56
EBITDA	293	562	695	1,532	621	448	457	1,477	305
EBITDAマージン	24.0%	37.4%	34.1%	39.7%	34.9%	28.1%	25.2%	37.2%	21.7%

- 前期比減益の主因は売上の減少。機材分野は前期比増収を確保したものの、医薬、バイオ分野の減収影響は吸収できず。特に医薬は前期好調であったことの反動が発生
- また、設備投資の拡大やそれに伴う人材への投資もコストアップとして影響。これらは成長のために不可欠ながら、短期的には収益を圧迫
- ただし、これは期初想定範囲内。現時点で想定を超える事業環境の変化やコスト増減などは発生せず

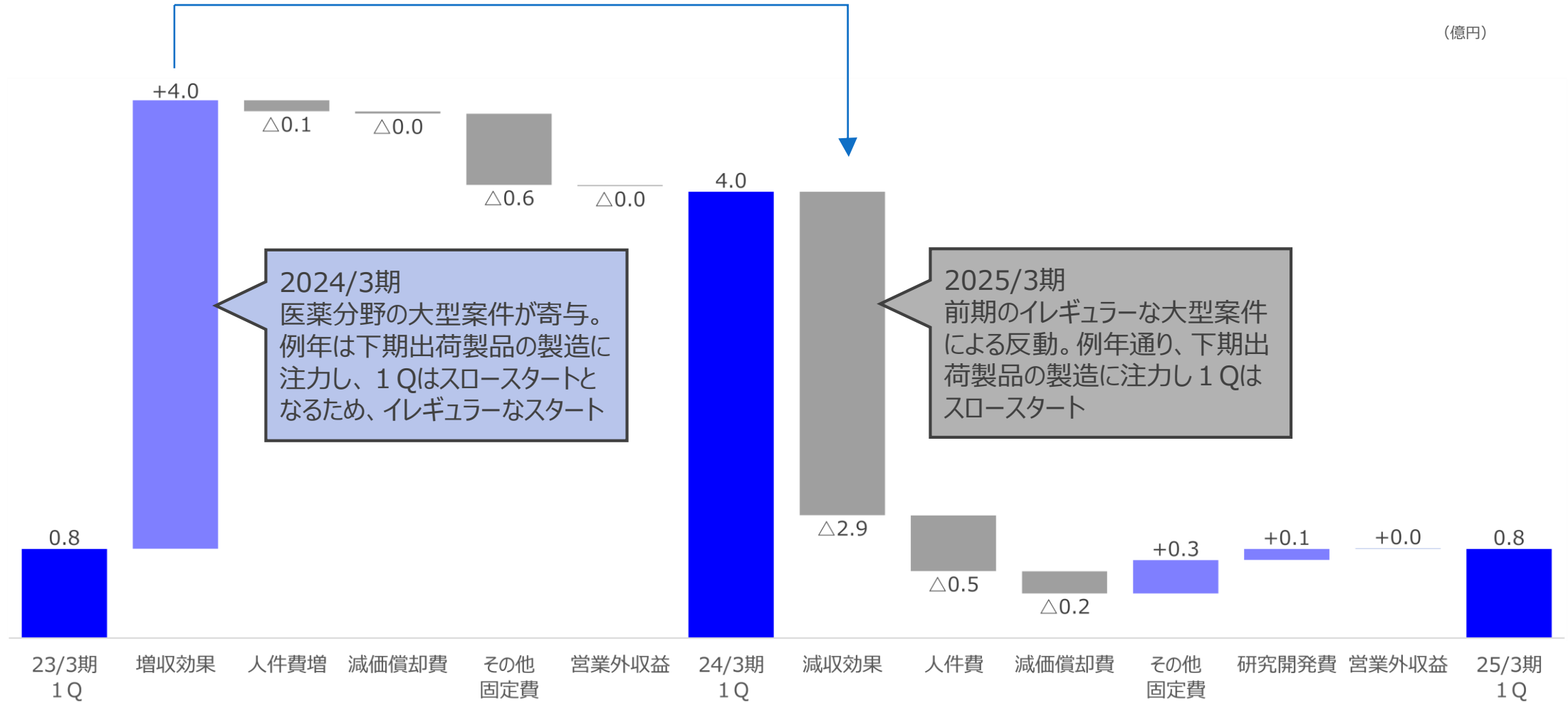
2025/3期1Q経常利益 増減益要因分析

(億円)

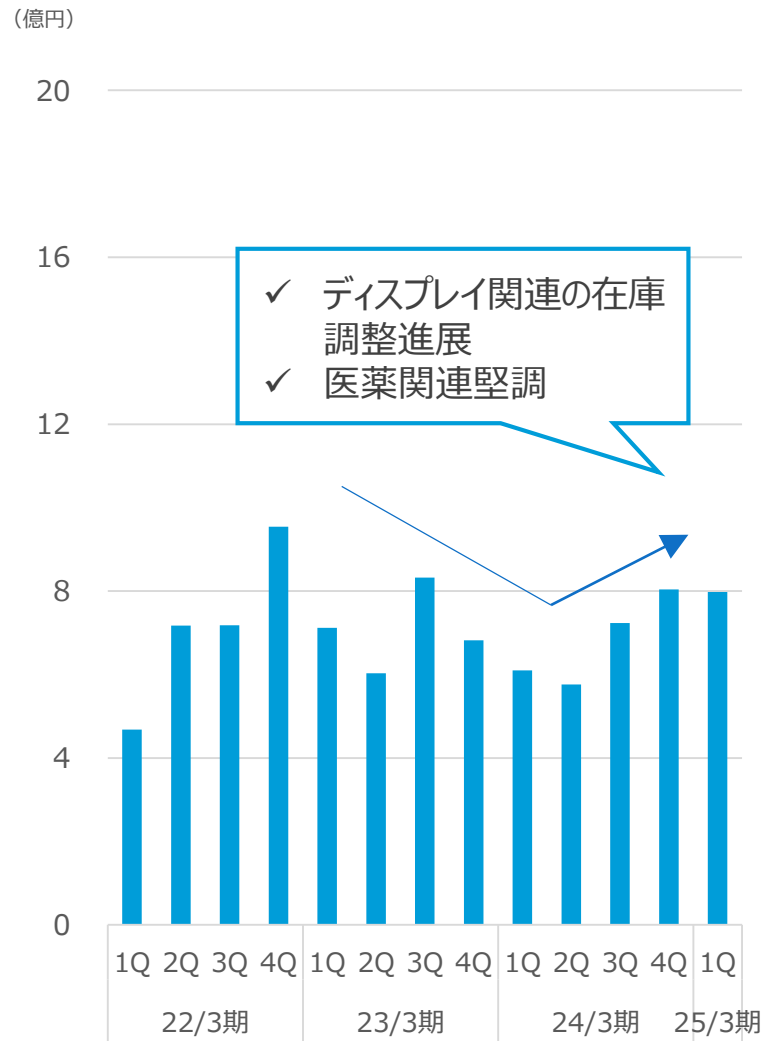


(ご参考) 経常利益 増減要因分析 (過去2期)

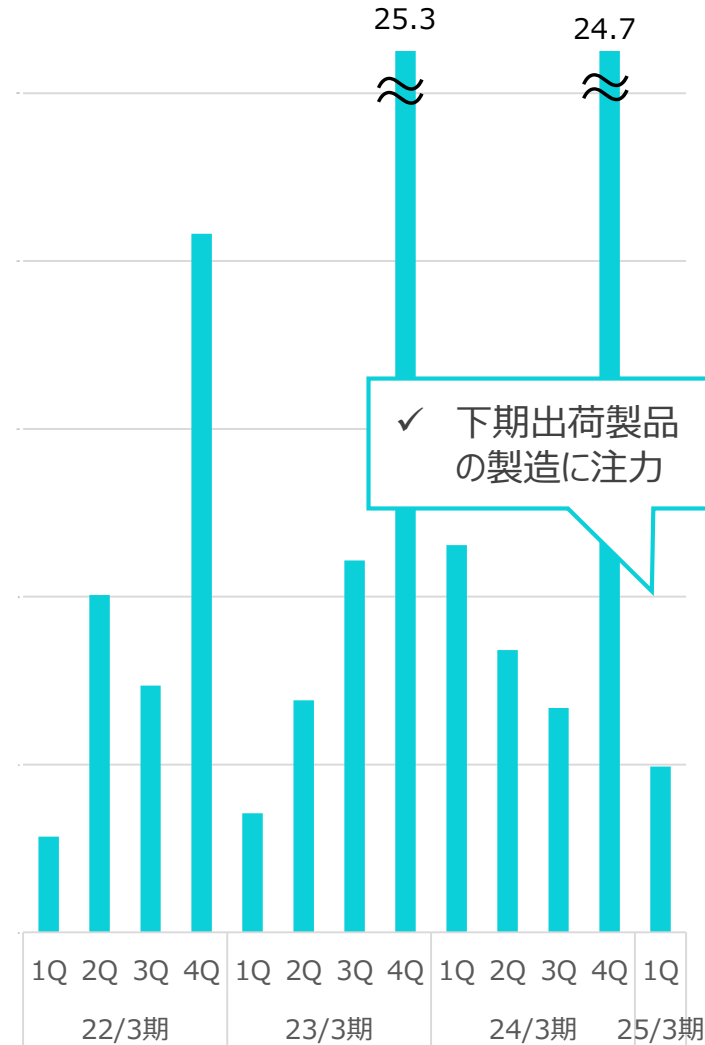
(億円)



機材分野 売上高推移



医薬分野 売上高推移



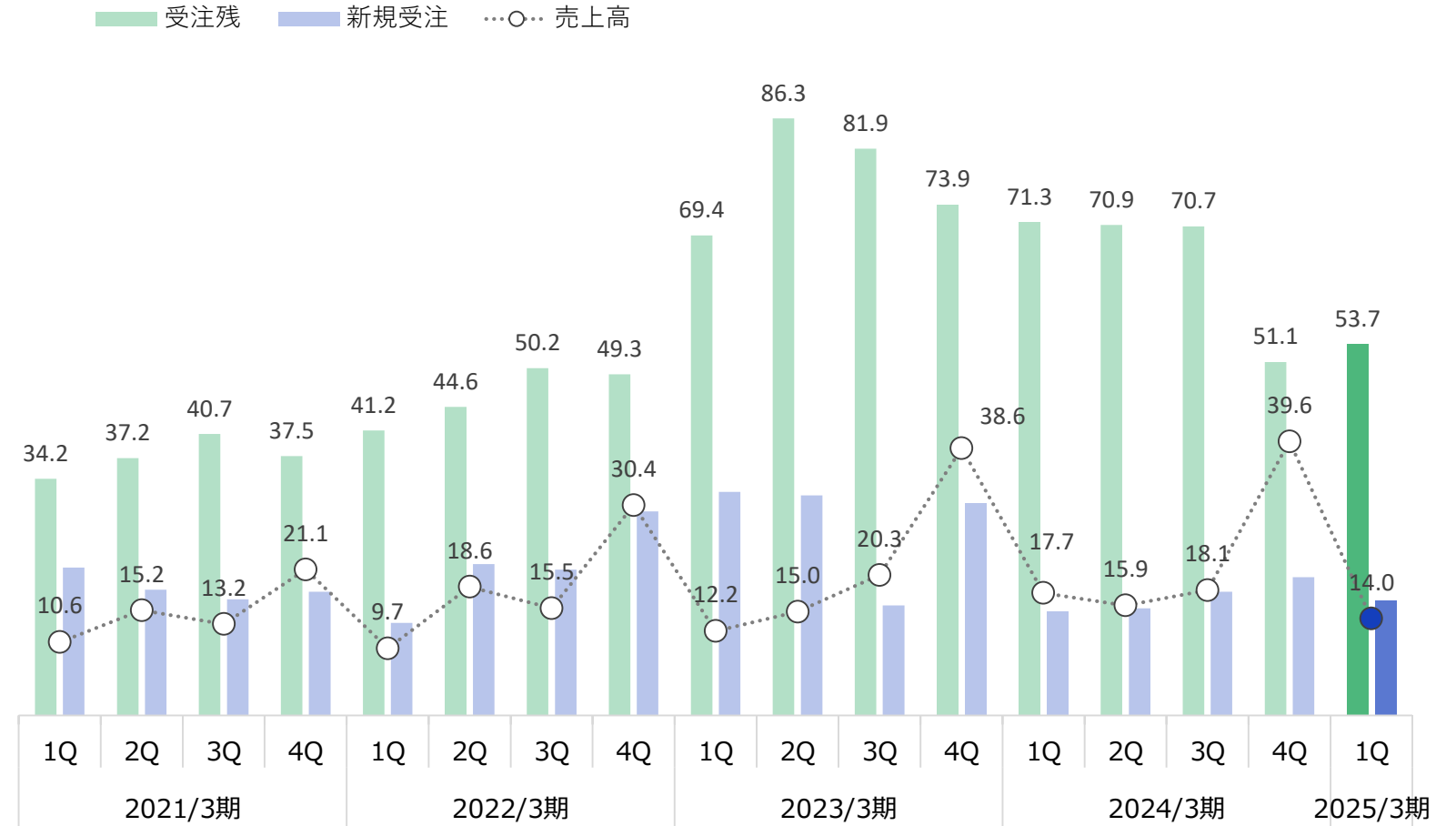
バイオ分野 売上高推移



- 1Qの新規受注は前4Q比では17%減の16億円。1Qは季節要因によって売上計上が限定的なため、受注残は前4Q末比で積み上がり
- 3四半期連続で増加していた新規受注は一旦減少。一部案件の先送りがあったうえ、下期予定の大型改修工事を控えた受注調整が影響
- ただし、改修工事後を睨んでの引き合いは堅調。外部環境は依然として追い風状況に変化なしと認識

売上、新規受注および受注残の推移

(億円)



※顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず

- 総資産は前期末比8%減少。前期末に積み上がった売上債権の回収が進捗。2Q以降出荷予定の仕掛品や製品の棚卸資産が増加
- 負債は法人税などの未払金解消が進展
- 手元キャッシュは設備投資の拡大に一部を充当し、減少。
- 1Q末の自己資本比率は75.6%。4億円のネットキャッシュと実質無借金経営が継続

財政状態の推移

(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期 1Q	前期末差異
流動資産	7,459	8,558	6,528	△ 2,030
現預金	2,297	3,311	2,610	△ 700
売上債権	2,792	2,626	790	△ 1,836
棚卸資産	2,279	2,518	3,000	+481
固定資産	7,945	10,063	10,682	+619
建設仮勘定	8	1,345	1,652	+307
繰延税金資産	336	1,151	1,130	△ 20
総資産	15,404	18,621	17,211	△ 1,410
負債	3,659	5,534	4,193	△ 1,341
有利子負債	1,536	1,970	2,174	+204
未払金/未払税	1,059	1,699	268	△ 1,431
長期前受収益	9	923	922	△ 0
純資産	11,745	13,086	13,017	△ 68
負債純資産合計	15,404	18,621	17,211	△ 1,410

2. 2025年3月期 決算見通し

- 通期見通しは従来想定を据置き
- 売上高は4期ぶりの減収となる90億円を想定。需要好調ながら、特に製造能力増加を狙った設備の大型改修などが重石になる見通し
- 損益面では34%の経常減益を想定。成長余力確保に向けた先行負担が収益を圧迫。当面の先行投資は人件費とし、設備投資増に対応した人材の確保・育成を推進

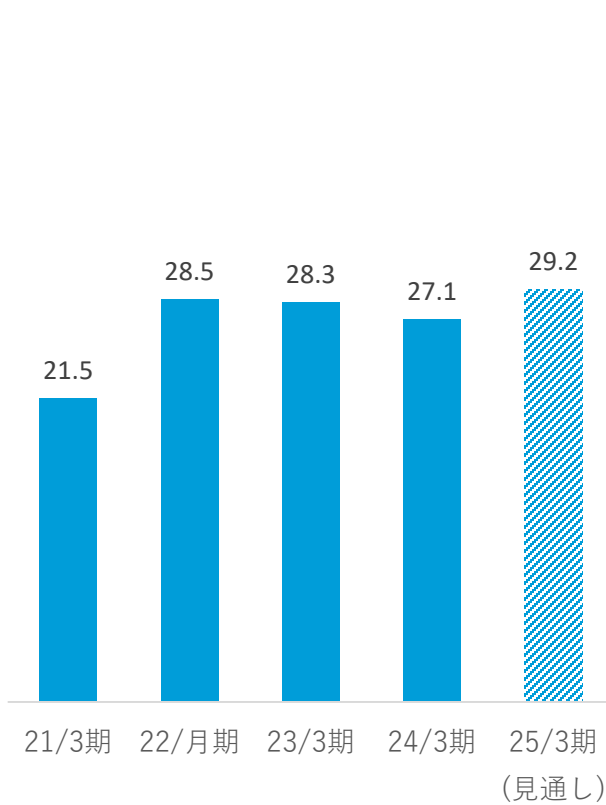
(百万円)	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期 見通し	前期比較	
					差異	変化率
売上高	7,440	8,628	9,154	9,000	△154	△1.7%
機能材料	2,858	2,832	2,714	2,900	+185	+6.8%
医薬	3,286	4,259	4,609	4,050	△559	△12.1%
バイオ	1,295	1,536	1,829	2,050	+220	+12.0%
営業利益	1,094	2,163	2,081	1,380	△701	△33.7%
経常利益	1,102	2,199	2,094	1,380	△714	△34.1%
経常利益率	14.8%	25.5%	22.9%	15.3%	△7.6 pp	—
当期純利益	643	1,542	1,493	960	△533	△35.7%
EBITDA*	2,023	3,082	3,003	2,304	△699	△23.3%
EBITDAマージン*	27.2%	35.7%	32.8%	25.6%	△7.2 pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

機材分野 売上高推移

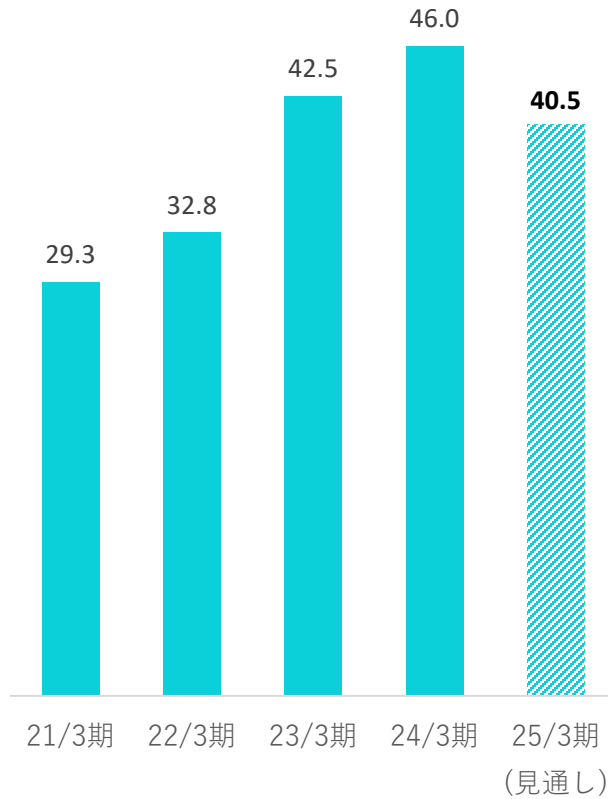
(億円)

売上 **+1.8億円**
対前期比 **+6.8%**



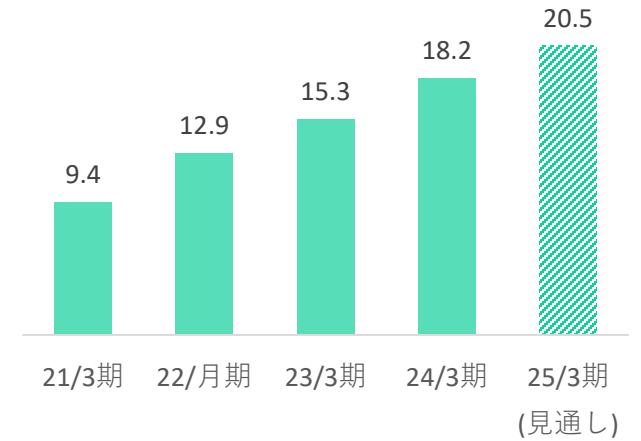
医薬分野 売上高推移

売上 Δ **5.5億円**
対前期比 Δ **12.1%**



バイオ分野 売上高推移

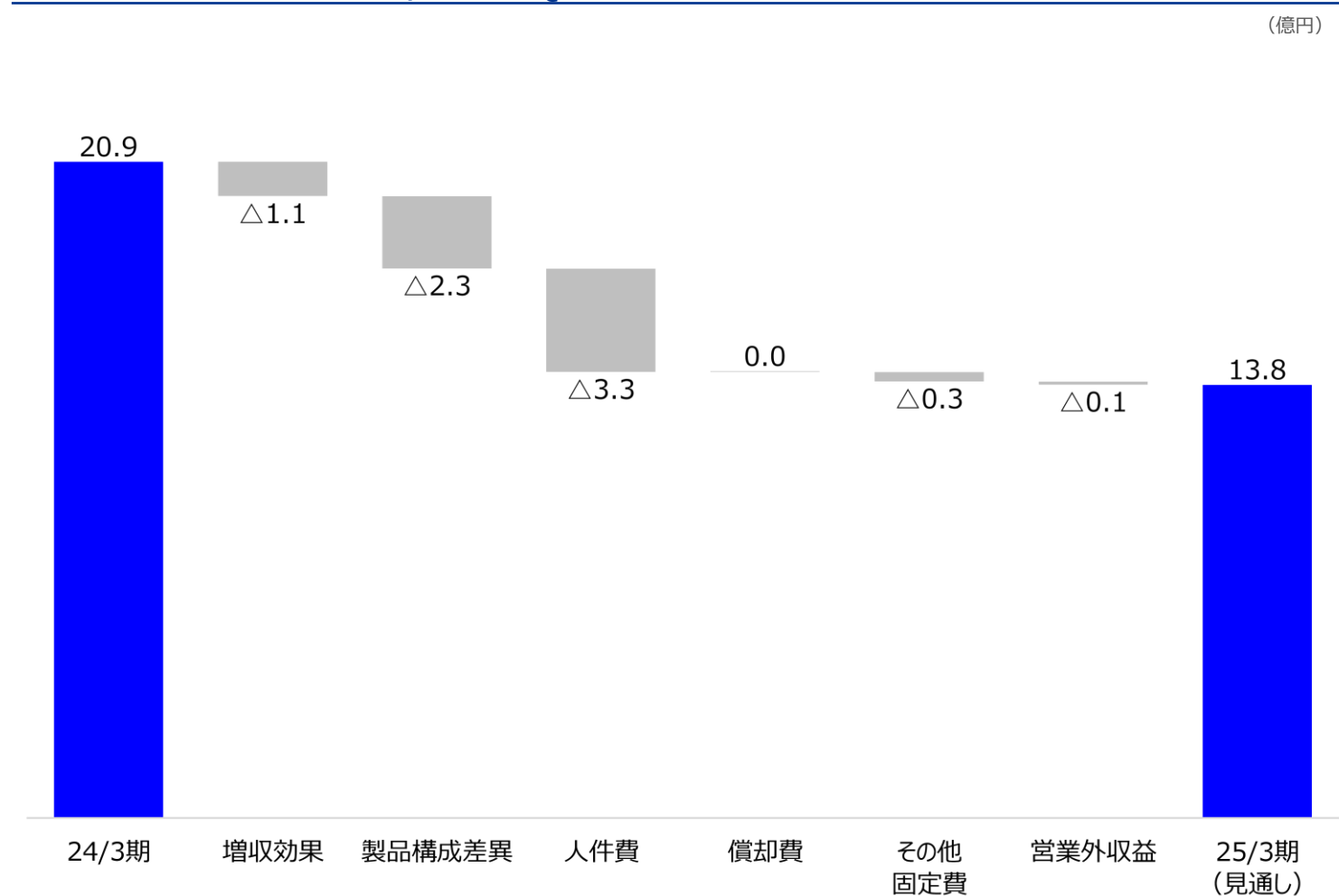
売上 **+2.2億円**
対前期比 **+12.0%**



- 経常減益見通しの主因は人件費の上昇。今後の能力拡張への準備もあり、優秀な人材確保に注力。コスト増となるが、持続的な成長には不可欠の「成長痛」と認識
- 大型案件一巡による製品構成差異も損益的には重石に。生産効率改善などを一層推進し、前期と同様、製品構成差異の影響抑制に向けて注力を継続

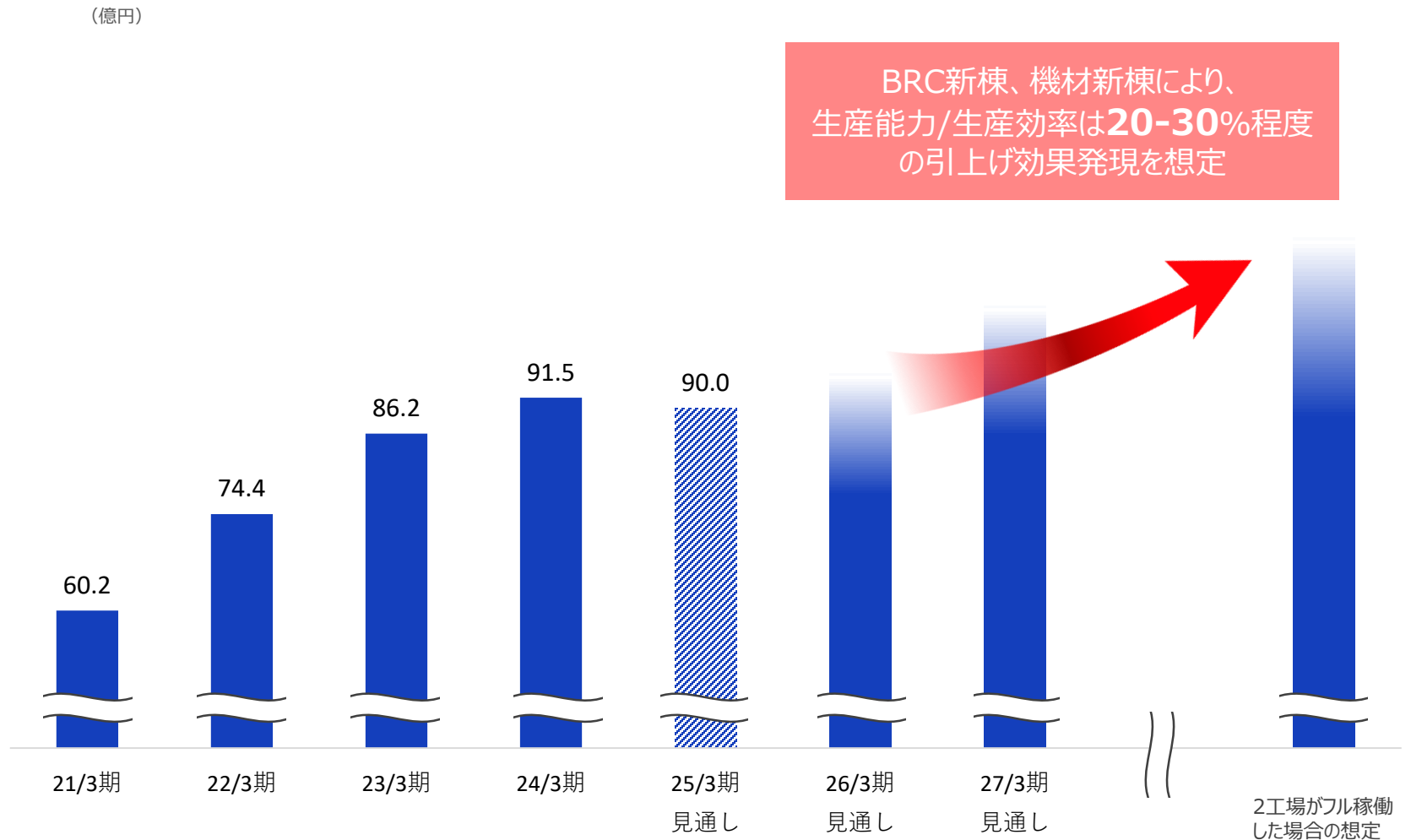
2025/3期1Q経常利益 増減益要因分析

(億円)



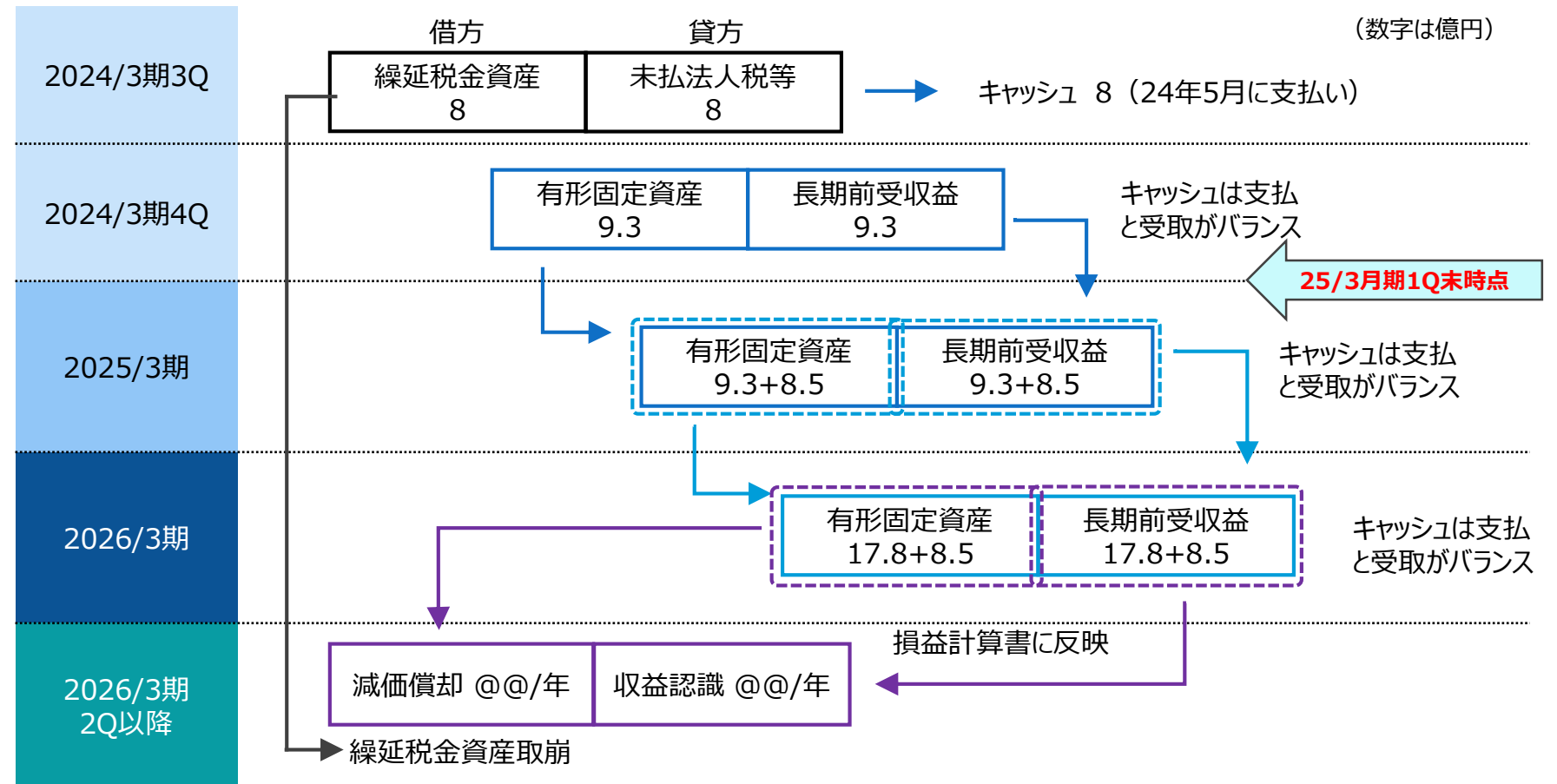
- **BRC新棟(D棟)**は26/3期1月頃を目途に垂直立ち上げ。減価償却費負担は実質なく、稼働率にかかわらず、損益面へは早々に貢献の公算
- **機材新棟(FP-4)**は26/3期秋に稼働予定。ただし、設備フル稼働は27/3期以降を想定

売上高 中期見通し



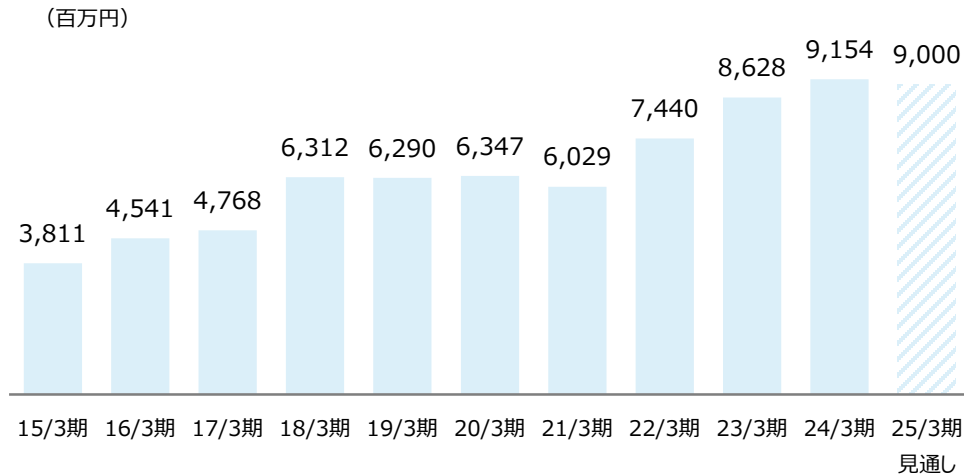
3. Appendix

- 当社所有の特定顧客専用工場として、顧客から建設費用の提供を受ける内容で契約済
- 建設費用は約26億円程度。支払いは3回に分けて発生
- 2024/3期3Qに顧客との契約締結に伴い、建設費用全額を益金として認識。課税対象となるため、3Qで一時的に租税公課（外形標準課税）が発生し、B/S・P/Lにも影響

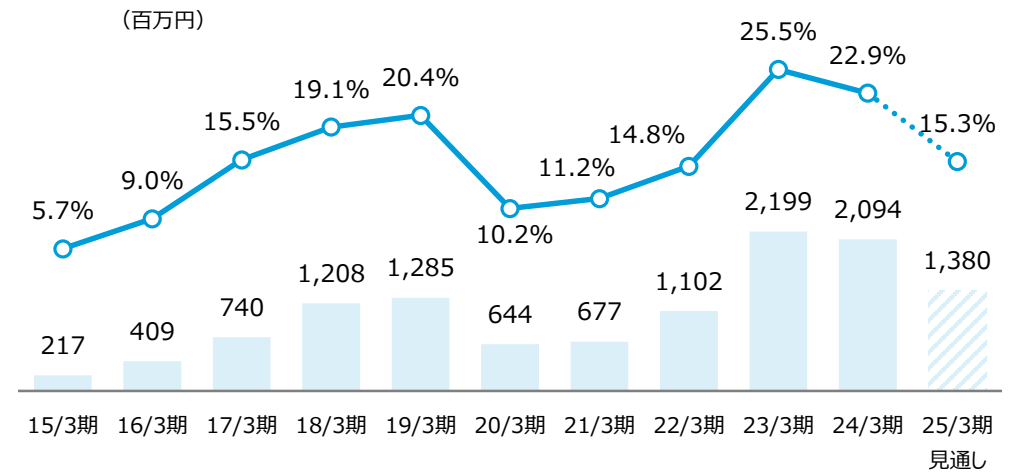


※ 減価償却は一部定率法を採用しているため毎年の計上額は異なる
 ※ 原価の中で減価償却費と同額が長期前受収益から取り崩され、実質的な負担は発生しない
 ※ 上記以外の新棟取得費用も発生見込みであり、その場合も同様に会計処理を実施する

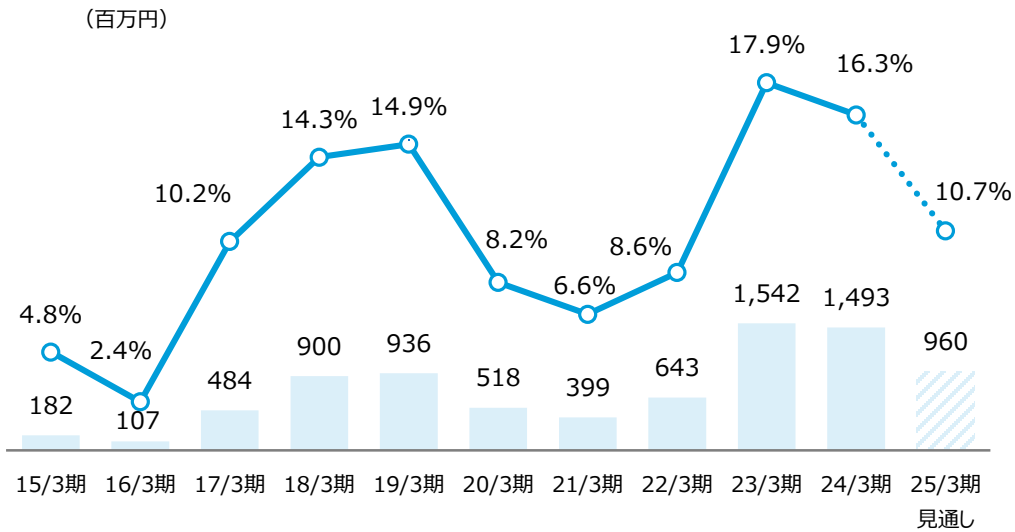
売上高



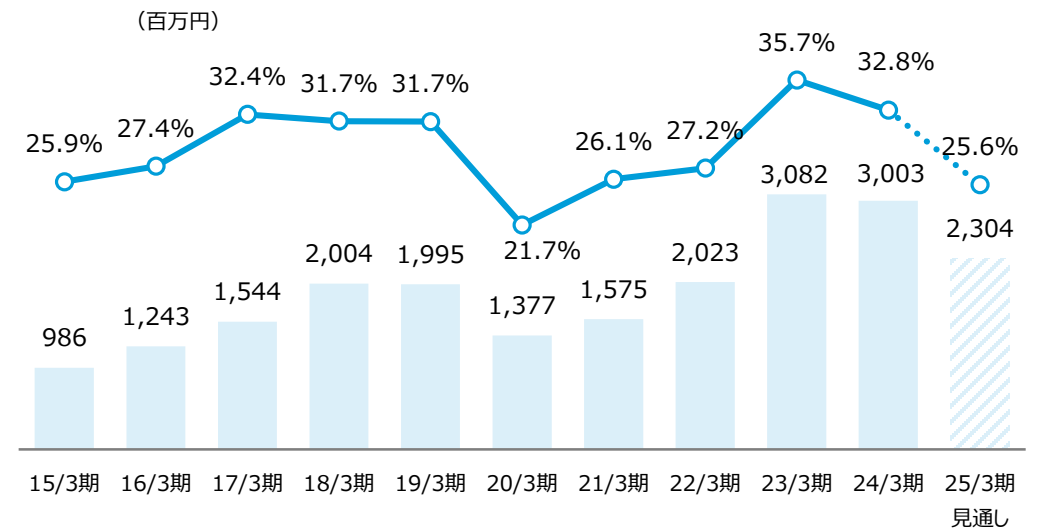
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



EBITDA・EBITDAマージン



EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp